年	出来事	備考
1995	製造物責任(PL)法が施行	事故発生時の製造・販売者の責任への考え方が広まる
1995	国際貿易機関(WTO)が発足	JISと国際規格への整合化が検討され始める
1997	道路運送車両法等が改正	農用車両の車検制度や寸法制度の廃止、最高速度の緩和(35km/h未満まで)等が見直しとなる
2001～	衝突被害軽減ブレーキ付きの自動車が普及	アクティブセーフティ(予防安全)技術への関心が高まる。1990年代から普及したエアバックなどのパッシブセーフティ(衝突安全)技術も合わせた結果、交通事故数はあまり減らないものの、死亡者、負傷者ともに減少
2001	厚生労働省「機械の包括的な安全基準に関する指針」を公表	機械単独の安全装備ではなく、作業場内の機械システムとして安全性を向上することや、労働安全、機械安全分野でのリスクアセスメント、安全マネジメントが日本国内に広がる
2001	国際労働機関(ILO)農業の安全衛生に関する国際文書(農業における安全及び健康に関する条約(第184号)を採択	国内関連通達等の整備が必要となり、1975年以来の農水省「農作業安全基準」改訂作業が行われ、「農作業安全のための指針」(平成14年3月29日 13生産第10312号農林水産省生産局長通知)が制定される。その後、2018年に改正される(https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/attach/pdf/index-51.pdf)
2003	ISO12100が発行	機械安全の基本概念が広まる。様々な分野でのマネジメント規格が発行される
2003～	映像記録型ドライブレコーダーが実用化	交通事故の瞬間が記録できるようになり、事故分析などが大きく変わり、危険映像もテレビ番組などで紹介されるようになる
2004	回転ドアへの挟まれ事故が発生	子供の事故に関心が高まる
2005	「失敗学のすすめ」(講談社文庫、畑村洋太郎著)が話題に	過去の重大事故の原因解明や従来からの技術検証への関心が広まる
2005	個人情報保護法が施行	安全分野では事故調査や事故情報の取扱が厳しくなる
2005	日本で適正農業規範(Good Agricultural Practices、GAP)認証が開始	農場・農作物の管理方法から労働者の安全福祉等の審査・認証が行われるようになる